

平成 29 年度いばらき農業アカデミー「炭酸ガス施用と補光を利用したバラの高品質・安定生産技術」

1月12日（金）に園芸研究所において、いばらき農業アカデミー「炭酸ガス施用と補光を利用したバラの高品質・安定生産技術」を開催しました。当日はバラ生産者、市場関係者、全農茨城及び県関係機関の27名の出席があり、平成26年度から平成28年度まで取り組んだ試験結果を紹介しました。また、平成29年度から新たに取り組んでいる整枝剪定方法や補光技術等についても、意見交換を行いました。出席者から多くの意見が寄せられ、今後のバラの試験研究と普及における課題解決に向けた有意義な検討会になりました。

1 試験研究の取り組み・進捗状況の紹介

バラの炭酸ガス施用、補光技術及び整枝剪定方法について、研究成果や進捗状況を紹介しました。LPガス燃焼型炭酸ガス発生装置を使用して、日中のハウス内炭酸ガス濃度を高め、光合成効率を高めることによって、バラ切り花の収穫本数の増加が確認されました。また、光合成専用枝にLED補光を施すことで、収穫本数の増加が認められました。平成29年度から新たに取り組んでいる整枝剪定方法（アーチング仕立て+切り上げ剪定）及びトップライティング型LEDによる補光を利用した栽培技術についても、途中経過ではありますが収穫本数が増加しています。

2 圃場検討

整枝剪定方法、炭酸ガス施用装置及びLEDの状況を見ながら、試験区の生育状況を検討しました。

3 総合討議・意見交換

炭酸ガス施用を取り入れている生産者からは、芽吹きが良くなる、規格の大きい切り花の収穫本数が増える、葉のつやが増す等の情報提供があり、効果を再確認できて良かったとの声がありました。また、どのくらいの経費がかかるのか、施用濃度を下げた時にも効果が出るのか等、炭酸ガス施用技術に興味を示す多くの意見がありました。

今回の現地検討会では、生産者から炭酸ガス施用を新たに導入した結果、効果が出ているという声や、株元加温、大気濃度程度での炭酸ガス施用、ダニやうどんこ病などの病害虫についても試験して欲しい等の要望も寄せられました。今後も園芸研究所では、関係機関と連携を図り、産地や生産者の期待に応えられる課題解決と開発技術の普及を目指します。

※茨城新聞、日本経済新聞の取材があり、2社とも1月17日（水）に記事が掲載されました。



ほ場検討



室内検討